

第 24 期日本学術会議健康 少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会
第 3 回議事録

開催日時：2018 年 9 月 10 日（月）18:00～20:00

場所：慶應義塾大学信濃町キャンパス 孝養舎 2 階マルチメディア教室

出席者：小松、永瀬、岩崎、井上、正木、西村（議事録）

欠席者：寶金、川口（順不同、敬称略）

資料

- ①第 24 期日本学術会議 少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会 第 3 回会議議事録
（概要版）
- ②第 24 期日本学術会議 少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会 第 3 回会議議事録
（詳細版）
- ③社会福祉学の視点からとらえた「ケア」（岩崎委員）
- ④ケアサイエンスという概念とどう考えるか——経済学からの試論（永瀬委員）
- ⑤病や老い——当事者の視点から見えてくる世界（小松委員長）

【議題】

（1）幹事会の報告

特別な報告事項はなかった。今後は、新たな委員の候補者を検討していきたい。

（2）ケアサイエンスに実践にかかわる報告および検討

1) 社会福祉学の視点からとらえた「ケア」

資料③をもとに、岩崎委員から「社会福祉学の視点からとらえた「ケア」」について報告された。それを受けた質疑応答で、社会福祉学が注目している「ケア」、対象が政策と実践の現実であること、主たる取り組みなどが紹介された。

加えて、近代化が推進された過程における社会制度の課題が議論された。

ケアサイエンスについては、社会福祉において、どのような意味で必要とするのかを検討していくこと、その際、サイエンスの意味を明確にすることの必要性が議論された。また、学際的かつ実証的な取り組みがケアサイエンスとなっていくという考えが出された。

2) ケアサイエンスという概念とどう考えるか——経済学からの試論

資料④をもとに、永瀬委員から「ケアサイエンスという概念をどう考えるか」について報告された。それを受けた質疑応答で、高齢者が多様な能力を持っていることへの理解、およびケアの担い手になるなどの発想の転換が必要であること、自由を重視する経済学の考え方などが議論された。

さらに、地域包括ケアの自助、共助、公助、互助について検討され、制度のもつ課題等について確認された。高齢者の終末期医療についても、多角的な意見がされた。

3) 病や老い——当事者の視点から見えてくる世界

小松委員長より、永瀬委員の発表において議論となった後期高齢者の意見や考え方について、資料⑤をもとに、調査結果が報告された。この発表内容は、ロボット分科会のシンポジウムにおいて発表予定である。

4) 今後の検討

小松委員長より、ロボット分科会のシンポジウム等で、第三部の委員を勧誘する予定であることが報告された。また、永瀬委員より、最終的に「ケアサイエンス」に関する書籍を出版することが提案された。

次回の分科会では、下記の3名に発表を依頼する予定である。

- ・堀田聡子氏
- ・第三部の委員
- ・寶金委員

次回会議は、発表者の日程を調整し、年内に開催予定。

以上